

古着がつなぐ国際協力の輪

「フルクル」のこれまでとこれから

ユネスコ委員会

令和6年12月16日(月)に校内にて講演会を行いました。認定特定非営利活動法人ブリッジ エーシア ジャパン(BAJ)から事務局長 新石正治様をお招きして、古着リサイクルプログラム「フルクル」の仕組みやBAJの活動についてご講演いただきました。



今年度10月にユネスコ委員会で行なった古着回収キャンペーンで集まった衣料品をBAJ様に寄付させていただきました。今回は活動のまとめとして古着がどのように活用され、団体のどのような活動につながっていくのかをお話いただきました。

10月に行ったキャンペーンでは約375着もの衣服が集まりました。昨年度までに回収した分も合わせて約700着の衣服を、多くの寄付先の中から国際協力、またはより近いアジアの助けになることができる取り組み「フルクル」を見つけ、BAJに寄付させていただくことにしました。また、BAJの活動拠点の1つであるミャンマーでは、3年前から国軍のクーデターにより危険な状態が続いています。多民族国家であるミャンマーでは紛争が絶えず、インフラの整っていない辺境の地が多くあります。しかし、現在この状況を報道で見かけることは少なくなり、日本人や世界から関心が向けられることも減ってきています。三田高校で行う活動によって現状を伝え、少しでも支援の輪を広げるお手伝いをしたいと感じました。

BAJは橋の建設や井戸の掘削などのインフラ整備を通してミャンマーの人々の生活を支える活動をしています。また、学びの機会を提供するBook&Toyミニライブラリーは、戦争中でも子供たちが未来への希望を持つことができる支援になっています。講演でも現在は紛争によってさまざまな活動が制限されているが、フルクルや講演会などの活動を通してミャンマーの現状を伝えていきたいとお話しされていました。

現地での活動以外に私たちも参加できる取り組みが「フルクル」です。家のタンスに眠っている古着をBAJで回収して、リサイクル業者に買い取ってもらった利益がBAJの活動資金として使われていく仕組みです。企業や学校等で多くの人に参加を呼びかけやすく、手軽に国際協力に参加できるという利点があります。また、日本で年間約50万トンも捨てられている衣料品の衣服ロス問題解決にもつながる活動です。



講演会では SDGs の広がりによって「フルクル」の取り組みや意義を理解してもらいやすくなり、SDGs というコミュニケーションツールを用いてより多くの企業や学校と活動ができるようになったとおっしゃっていました。

参加した生徒からは、「ミャンマーがこれほど危険な状態にあるとは知らなかった。」「古着回収という小さな活動も力になれていると感じた。」「実際の経験を聞く貴重な機会になったので、自分たちも活動の輪を広げていきたい。」といった感想が上がりました。

今回の講演を聞いて、私たちが行った古着回収キャンペーンはとても小さな活動であるということを感じました。日本だけでも年間 50 万トン以上捨てられる衣服をすべて再利用したり、BAJ のミャンマーでの支援のように現地の人々に直接大きな手助けをしたりするのはとても難しいことだと思います。だからこそ、私たちが希望をもって小さな活動を続けて支援の輪を広げていくことが大切だと感じました。ユネスコ委員会では古着回収だけではなく、白珠祭でのバザー開催や寺子屋運動など様々な活動を行っています。今後もユネスコ委員で積極的に活動に取り組んでいくとともに、生徒や保護者、先生方も巻き込み、できるだけ多くの人に広がる活動にしていきたいと思います。

この度は貴重なご講演ありがとうございました！

